

第15回 平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震緊急災害対策本部会議
及び 第13回 原子力災害対策本部会議概要

1 開催日時：平成23年4月11日（月） 14：45～15：03

2 場所：官邸4階大会議室

3 出席者：

【本部長】菅直人内閣総理大臣

【副本部長】松本龍内閣府特命担当大臣（防災）・環境大臣、枝野幸男内閣官房長官・内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）、片山善博総務大臣・内閣府特命担当大臣（地域主権推進）・地域活性化担当大臣、北澤俊美防衛大臣

【本部員】江田五月法務大臣、松本剛明外務大臣、野田佳彦財務大臣、高木義明文部科学大臣、細川律夫厚生労働大臣、鹿野道彦農林水産大臣、海江田万里経済産業大臣・原子力経済被害担当大臣、大畠章宏国土交通大臣・海洋政策担当大臣、中野寛成国家公安委員会委員長・公務員制度改革担当大臣・拉致問題担当大臣、自見庄三郎郵政改革担当大臣・内閣府特命担当大臣（金融）、蓮舫内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全、行政刷新）・節電啓発等担当大臣、与謝野馨内閣府特命担当大臣（経済財政政策、少子化対策、男女共同参画）・社会保障・税一体改革担当大臣、玄葉光一郎国家戦略担当大臣・内閣府特命担当大臣（「新しい公共」、科学技術政策）・宇宙開発担当大臣、平野達男内閣府副大臣、近藤昭一環境副大臣、伊藤哲朗内閣危機管理監

【その他】仙谷内閣官房副長官、福山内閣官房副長官、瀧野内閣官房副長官、梶田内閣法制局長官、班目原子力安全委員会委員長

4 配布資料

- ・平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震について（第97報 概要版）（緊急災害対策本部提出資料）
- ・被災者支援の状況（被災者生活支援特別対策本部提出資料）
- ・第15回東北地方太平洋沖地震緊急災害対策本部会議及び第13回原子力災害対策本部会議資料（経済産業省提出資料）
- ・被災地向け広報について（内閣官房提出資料）
- ・災害警備活動の現況（発災後1か月）（警察庁提出資料）
- ・東日本大震災（その45）（外務省の対応）（外務省提出資料）
- ・東日本大震災への対応について（厚生労働省提出資料）
- ・東日本大震災（第44報）概要版（国土交通省提出資料）
- ・防災上の留意事項（気象庁提出資料）
- ・平成23年東日本大震災の対処の状況（4月11日 0700 現在）（防衛省提出資料）

5 議事次第

1. 開会（内閣官房長官）
2. 内閣総理大臣あいさつ（内閣総理大臣）
3. 各省庁からの報告
 - 被災者生活支援の状況報告等について（防災担当大臣）
 - 原子力発電所の状況、対策及び被災者支援の状況について（経済産業大臣）
（その他）
4. 閉会（内閣官房長官）

6 議事概要

（1）内閣総理大臣より冒頭発言

東日本大震災発生からちょうど一か月がたった。亡くなられた多くの御霊に対して、心から哀悼の意を表すため、ただいま皆さんと共に黙禱をささげさせていただいた。また、最愛の家族を失い、最愛の我がふるさとが被災された多くの皆様に対して、改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。この対策本部としても、精一杯努力をしてきたわけだが、これから更なる努力が必要だと考えている。一日も早い復旧から復興への努力、そして原子力災害をこれ以上拡大しないための努力、そしてこの東日本大震災に対して、これにくじけるのではなく、これをはねのけて新しい日本を作り出していく努力、その努力をこれから更に頑張っていかなければならないと考えている。私もその先頭に立って改めて全力を振り絞って頑張りぬく覚悟であるので、閣僚各位においてもその覚悟で臨むことを申し上げて、一か月目にあたっての言葉とさせていただきます。

賠償について、一義的に東京電力が事業収益をもとに行うべき。政府としても万全を期す。法に基づき、指針を作るため、審査会を設置する。また海江田大臣を本部長とする経済被害対応本部を設置する。損害賠償履行に必要な総合的スキームを検討するものである。東電への支援もある。総合的な被災者支援を進める。

（2）資料に基づき、出席者より説明。

（3）上記のほか主な発言は次の通り。

○副本部長として、文部科学大臣、財務大臣、官房長官が入る。事務局も作っている。（内閣官房長官）

○発災からちょうど1か月を迎えた。3月11日からずっと思っているのは、何とか命が助かった方々の命を守らなければならないということ。着の身着のまま命からがら逃げてこられた方をどのようにケアしていくのか、残念ながらこの大変な状況は長く続きそうだが、少しでも平穏な生活に近づけるよう、心を砕いてきた。

避難所には多くの方々、さらに、その避難所の周りには自宅で頑張っておられるもっと多くの方々がいらっしゃる。これらの方々の生活を守るため、生活支援

本部は全力で取り組んできた。当初は、膨大な物資の調達・輸送が課題であったが、現在では現地までの配送システムは出来上がっている。

しかしながら、被災者のニーズはどんどん変化していくものであり、品目、数量はまだ不十分な面がある。昨日よりも今日、今日よりも明日と、生活を少しでもステップアップしていくために、継続的な努力が必要である。

また、実態を把握するために、東北3県のすべての避難所を対象に、モニタリングを実施しようとしている。

同時に、避難生活が長引いてきたことによって、医療や介護、雇用、子供の学びなど、物資以外でも避難所の暮らしを支援することが必要である。一日先、一週間先、一か月先に何が求められるのか、先取りして考えることが重要である。私からは、各省庁に対して、課題は何かを常に深掘りするようお願いしている。例えば、新学期に向けて、避難所を統合しているところがある。避難所の数は減るが、これによって、避難者密度が上がり生活環境が逆に悪化するかもしれない。このようなことにも気を配っていくことが大切ではないか。

先週には、宮城県を訪ねさせていただいた。避難されている方々のお話をうかがい、長い避難生活のご苦労を実感した。一方で、住民や自治体職員、ボランティア等の方々が、復旧に向けて奮闘されており、頭が下がる思いである。

また、石巻市の水没地域では、自衛隊の方々が、冷たい水に胸までつかりながらご遺体の搜索作業をしており、その献身的な活動に深く感銘した。

訪れた南三陸町では、町外への集団避難がなされていた。町長には相当の決意が必要であったと思われる。佐藤町長とは同い年であり、お互い頑張っていこうと励ましあった。先週木曜日深夜にあった最大級の余震で震度6強がでた栗原市は、集団避難先の一つである。心配になってすぐに町長に電話をしたが、町長は、避難先と連絡がとれないと言っておられた。さぞ心配であったかと思う。

各地の自治体は、大変厳しい状況下で頑張っており、国はこのような取り組みをしっかりとウォッチし、サポートしていかなければならない。

最後に、重要なのは“つながり”であると思う。東北の方々の地元を愛する気持ち、土地から離れられない“つながり”は、私の想像以上であった。だからこそ、被災された方々の意見をしっかりと聞いて、これから何をされたいのか、それをしっかりと支えていかなければならない。

また、遠くに避難された方々もいるが、その方々が地元との“つながり”をなくさないようにすることも大切である。

いずれにしても、前例のない災害には、前例のない対応が必要である。皆が知恵を出し合って、復旧に向けて全力で取り組んでいきたい。

また、これから、被災者への義捐金、生活再建支援金の支払いも始まってくると思うが、これらが迅速かつ円滑に行われるよう万全を期していきたい。(防災担当大臣)

○福島第一原発では、淡水による注水を続けている。また、計器作りに努力中であ

る。地下水に主要装置が水没した可能性がある。緊急避難措置として低濃度水を放出したが、事前の通報が不十分であった。経産省の対応含め遺憾である。東電に事前に周知するよう指示をした。7日の余震により外部電源が一部遮断された。被災者支援のため、13市町村に松下副大臣を派遣した。(経済産業大臣)

- 風評被害が深刻になっている。被災地の農林水産物の販売促進が各地で取組みが行われている。例えば、いわき市については、新橋駅前で行っている。購入は支援につながるものであり、消費拡大の取組 PR していきたい。各省庁でもご支援願いたい。(農林水産大臣)
- 大変重要な問題。それぞれ福島のものが安全であることをPRする機会があれば、積極的に行って欲しい。(内閣官房長官)
- 30km圏内の遺体捜索を実施している。20km圏内の捜索は厳しい。また、主要道で検問を実施している。さらに空き巣防止に努める。収容された御遺体の検視を1200名態勢で実施している。84%が身元判明した。丁重に対応するよう努力してまいる。3県外からの応援もいただいている。一時帰宅対応も準備中である。(国家公安委員会委員長)
- 一時帰宅については、県への説明をしているところであり、今、最終調整中である。県、市町村に時間掛けて対応する。北西方向に、計画的に行う。新たに、自衛隊、警察にお願いするようなことはない。(内閣官房長官)
- 被災地の生産品について、各省の食堂での使用はすすんでいるのか。国での買い取りはどうか。(近藤環境副大臣)
- 二度にわたってお願いした。(瀧野官房副長官)
- 各省協力をお願いする。(内閣官房長官)
- 週末になると、被災地に一部の方が物見遊山で行っているという情報がある。(近藤環境副大臣)
- 難しい問題であるが、対応を検討する。(内閣官房長官)

(以上)

※本会議概要は各種資料等を元に、平成24年3月1日に作成。